

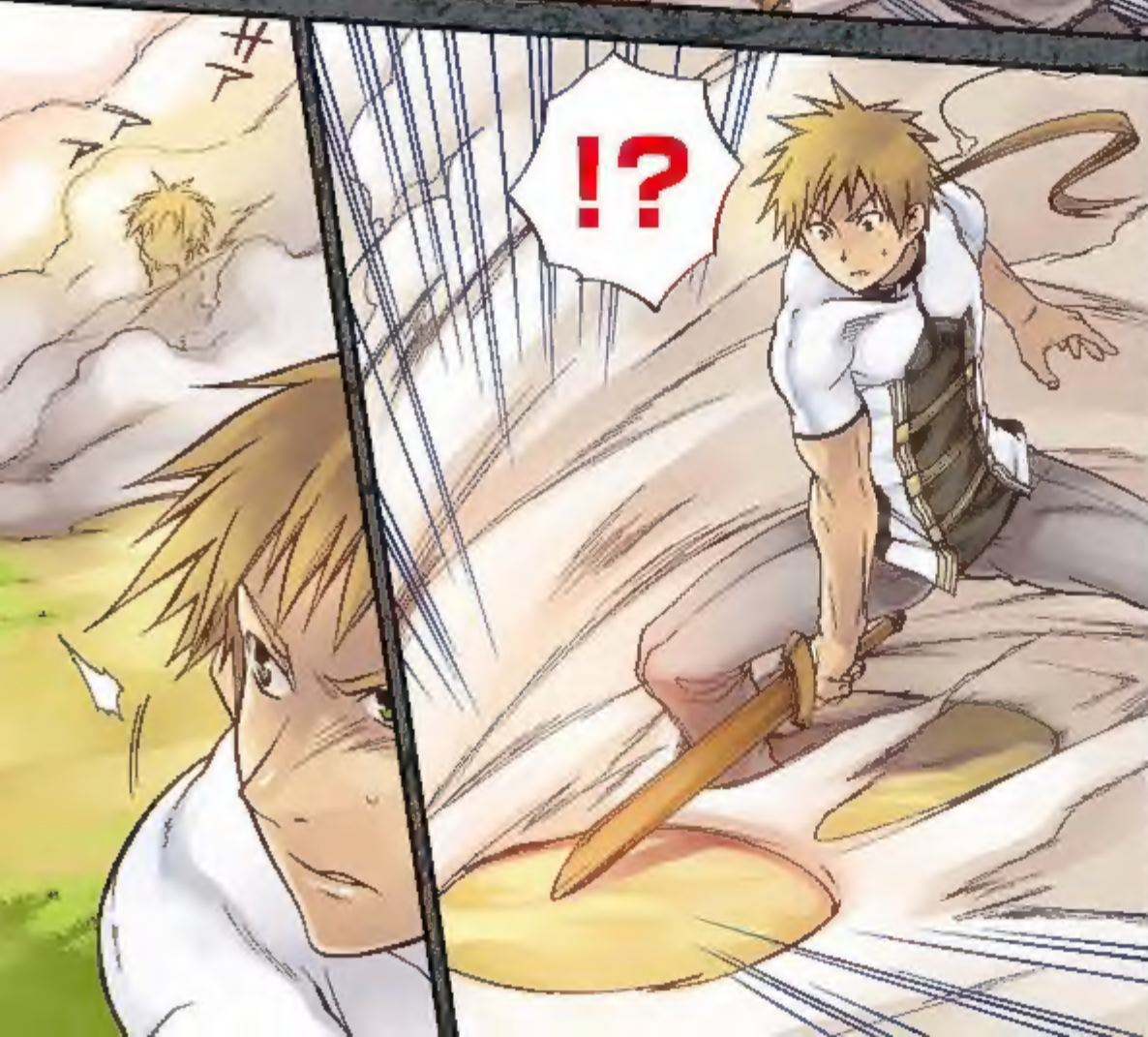
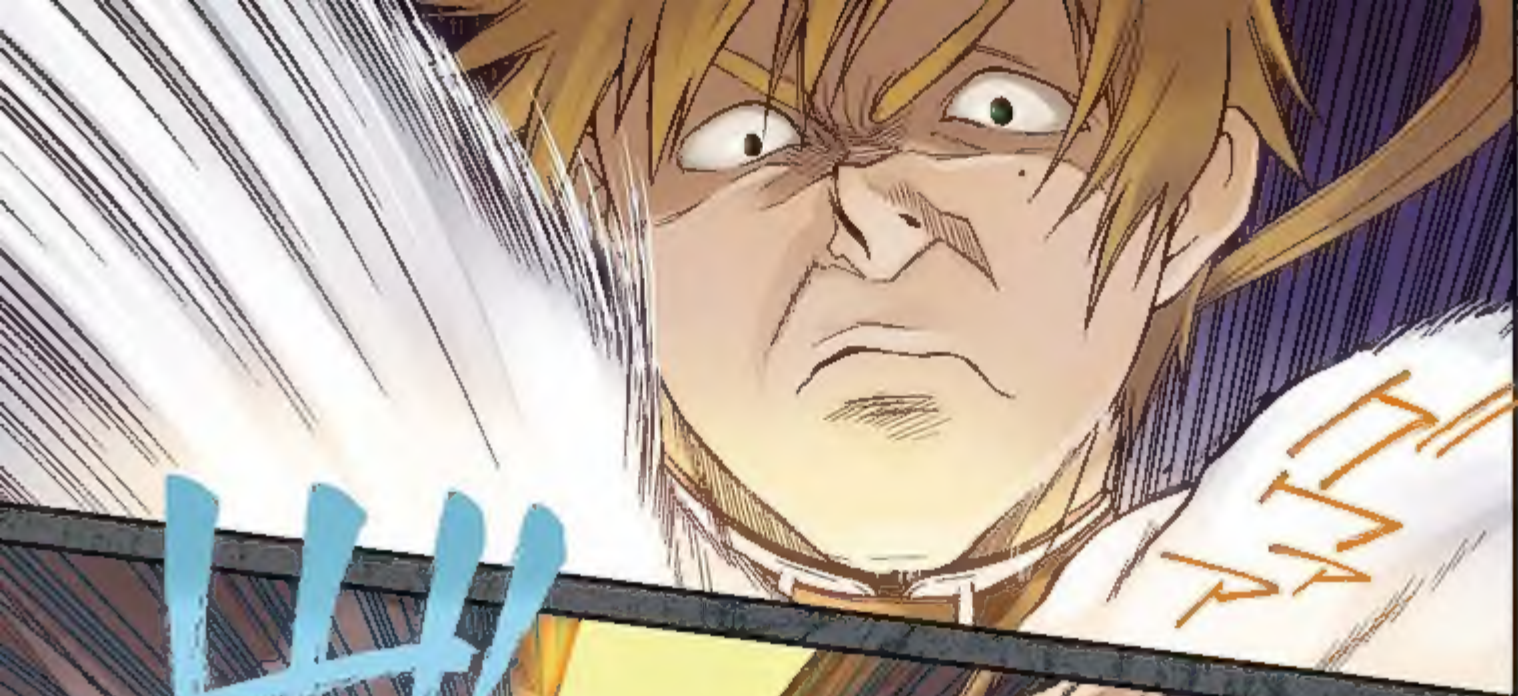
FUJIKAWA YUKA
フジカワ ユカ

原作：理不尽な孫の手
キャラクター原案：シロタカ

2

無職転生

異世界行ったら
本気だす



第6話†離別	001
第7話†お嬢様の暴力	041
第8話†油断	071
第9話†ボレアス流挨拶	091
第10話†エリスの憂鬱	123
書きおろしSS†狂犬王、飼い犬となる	150
side story†グレイラット家のメイドさん	159



第6話
離別

無職転生
異世界行ったら
本気だす

②

フジカワ ユカ
FUJIKAWA YUKA

原作:理不尽な孫の手
キャラクター原案:シロタカ



あああ怖かった
マジ怖かった
死ぬかと思った
ちびるかと思った

ど

なにになに なんなの!!

俺がちよつとワガママ

言っちゃったから

怒ってるのねえパパン!!



なんだが知らんが
パウロはやる気だ
応戦しなきゃ
やられる...

テレリ



思いだせ!
あのときをきっかけに
何度もシミュレート
してきた
対パウロ戦を!







父様…

おいおい マジで
犬丈夫なのかよ…









父様...



グワッ



す
る



あのときの
パウロは

正直
ムチャクチャ
カッコよかった



キーン...

この世界で三大流派と
うたわれるうち
特にこのふたつを自介に操る
パウロは強い



受け止めたカウシタを
中心とした防御型の
水神流

速度重視の攻撃型
剣神流



感謝するよパウロ
パウロのような
強い存在が
身近にいたからこそ

俺は努力を怠らずに
いられたんだ



あの戦いを見てから
パウロに勝つための策を
何度も練ってきた



俺の
本気で

アンタに勝つ!!!

...さっ



!?



とつた!!

もう、俺
ブチこんで
俺の勝!



マジか!?

両足止めないと
ダメなのかよ!?





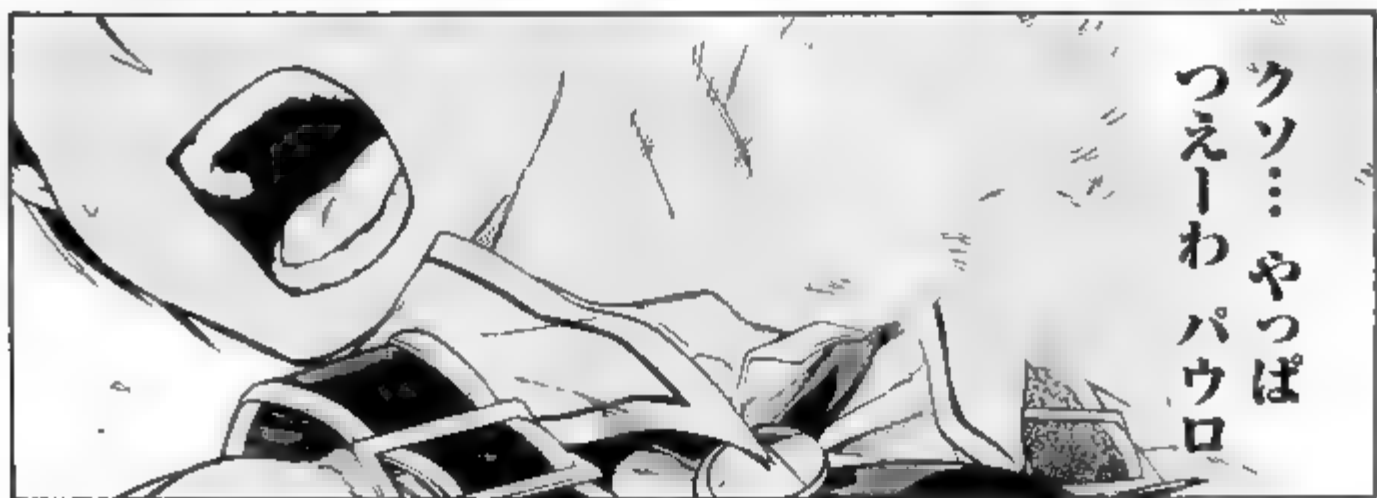
爆風で足止め!!!



このスキに
いったん
距離をとって
仕切り直しを...









木剣でよかった…



さすが
俺の息子だな
戦いのセンスが
ある！



ああ
久しぶりだな

ギレーヌ！
もう
来ていたのか！



剣術のほうは
難ありの
ようだがな





まそういうことだ

は？俺が
シルフィに依存……

なに……って

だから――



5年間

こいつを
親戚の家に
預けることに
した



まったく新しい場所で
いろいろなことを学び
さらなる飛躍を遂げる
ことを祈ってな



そこでルディにも
任せられそうな
仕事があったし
ちょうど
いいだろう

は!? 5年!?
マジで!?

5年間帰宅と
手紙のやりとりを
禁止する

なるほど
そういうことか

たしかにシルフィは
俺に依存している

なにをするにしても
俺に頼りすぎりだ

でも自分の問題も
自分で解決
しなければならぬ

いつまで経っても
成長できない

そして俺もシルフィを
優先するあまり
自分の成長が
おろそかになっている

つまり俺とシルフィは
一緒にいると
お互いの成長を
邪魔にあつてしまうのだ

だからパウロは
引き離そうとした

力尽くではあつたけど
親としては
正しい判断だつたと
いえるだろう



じゃ頼んだぞ
ギレーヌ

仕事の内容は
この手紙に
書いておいたから
あとで渡してくれ

そういえば
行き先って
どこなんだ？

わかった

——あ
ダメだ

もう
意識が……

……
カ
コ
コ
コ
コ
コ

起きたか

ここは

いって
!!!

カ
バ





城塞都市ロア



その領主
ボレアス家の
館だ



なんじゃーい!!!

パウロの息子は

挨拶もできんの

かーい!!!



黙っておれ!!!

貴様は

でっけー
声……

大旦那様
どうかご容赦を

ルーデウス殿は
まだ幼く礼儀を
習うひまはな……

なにがなんだか
ようわからんが……

……

これは失礼
しました

ルーデウス・
グレイラットと
申します

フンッ

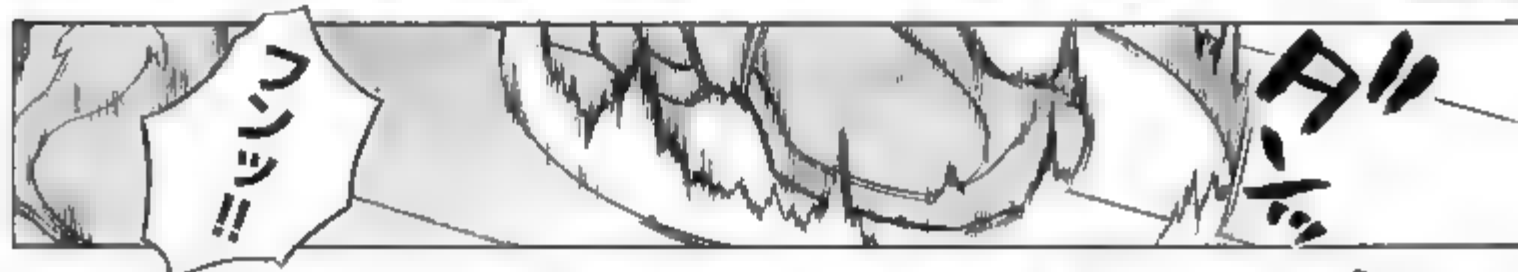
そんな挨拶の仕方が
あるか——い!!
パウロは自分の
息子に作法も
教えんのか——
!!!?

なんだよこの
おっさん……

お前もお前だ!
習おうと思えば自ら
進んで礼儀くらい
習えたらう!!

努力を
しなかったから
こんなことに
なるのだ!!!

なるほど確かに





先ほどのおかたは
フイットア領主
サウロス・ボレアス・
グレイラットだよ

今のかたは
一体……？



パウロの
叔父にあたり
君にとっては
大叔父となるね



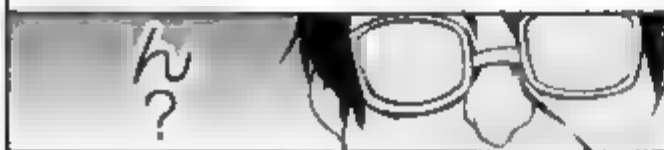
初めましてルーデウス
私はフイリツプ・ボレアス・
グレイラットだ

初めまして
フイリツプ様
ルーデウス・
グレイラットと
申します



こうですか？

そうそう
さっきのも
悪くない
けどね



ん？



貴族の挨拶は
右手を胸に当てて
こうするんだよ

その挨拶だと
父上に怒られた
だろう？



父様の手紙を
見た限りだと…

親戚の家に
下宿しながら
お嬢様とギレーヌの
家庭教師をして

5年間働いた
あかつきには
魔法大学への入学資金
ふたりぶんを援助して
もらえる——と



フイノトア領主で
グレイフット？

ん？ ハウロって
いいところのお坊ちゃん
だったのか？

まあ座ってくれ
話はどこまで
聞いている？



フム…
もう少し
つけ加えると
娘は少々
問題児だね

娘が今まで
気に入った
家庭教師は
そのギレーヌを
加えてふたりだけ
なんだ



パウロの息子だから
とりあえず試してみよう
ってだけだ



だから正直言って
君にはあまり
期待していない



あそうだ君
女の子は
好きかい？

パウロからの手紙では
女遊びがひどいから
隔離したと
あったんだけど



まあここで
話していても
埒があかないな
娘に会わせよう

トーマス！
彼を案内しろ

は



お嬢様
失礼
します

家庭教師の
先生をお連れ
しました

こちらの中身は
経験豊富な
中年だぞ
エロゲーのだけと



まったく

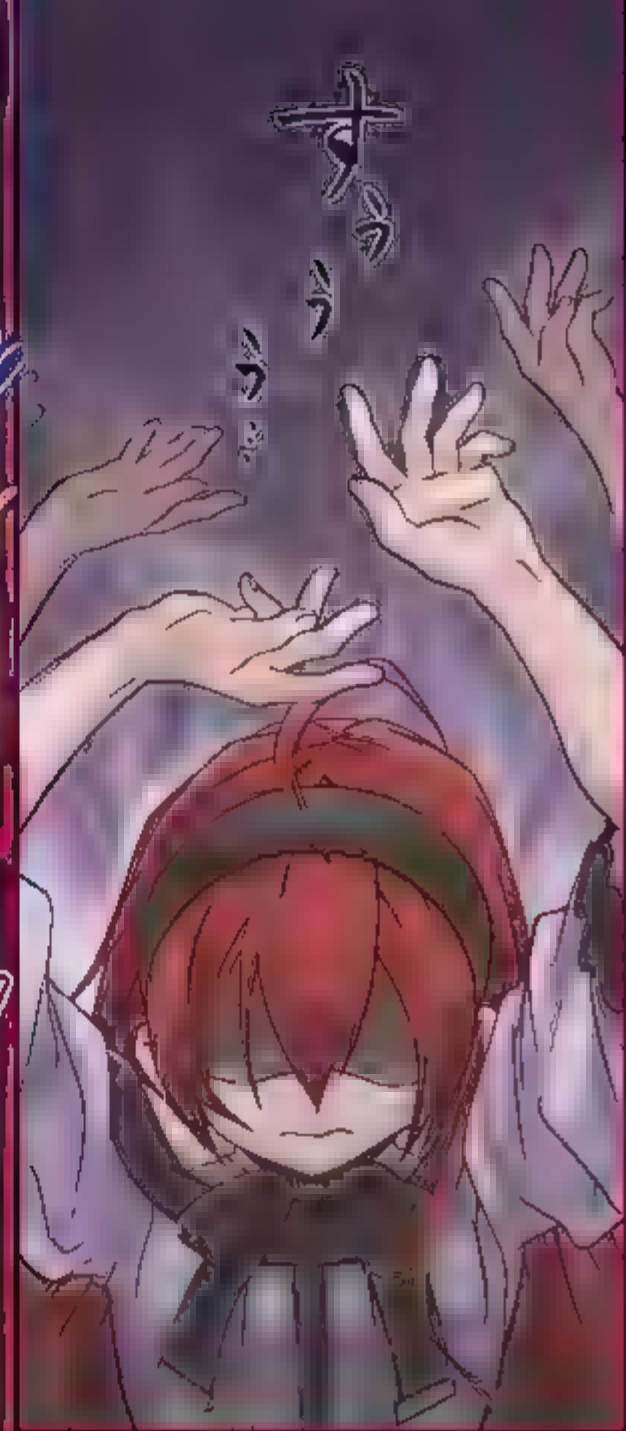
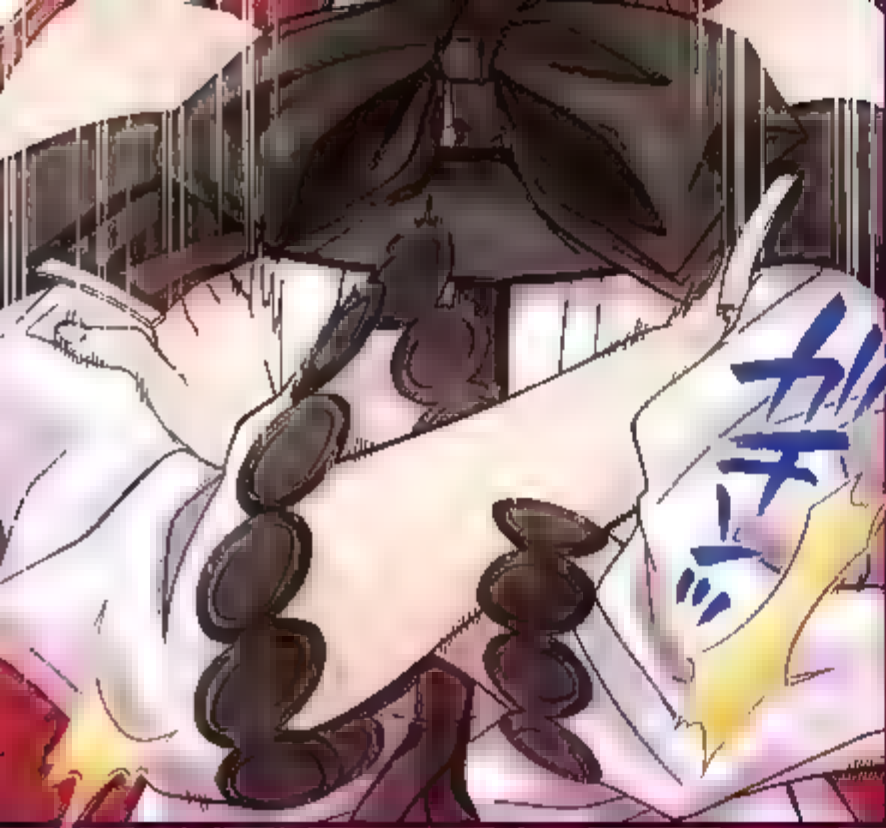
ずいぶんと
ナメられた
もんだ

なあに
お嬢様なんか
俺のモテテクで
了了了
ニヤン」に……



一体なにが





なによ!! 私より
年下じゃないの!

こんなのに
救わるなんて
冗談じゃないわ



……わ
お

こいつあ
狂犬だ……

第7話

お嬢様の暴力





ええええ
ちよつと
なんなの



それが
お嬢様のする
目つきかよ

てかいきなり
ブン殴るとか
あるう!?



娘は少々
問題児でね…

これが少々って
レベルですか
フィリップおいたん…

なんでいきなり
殴るんですか?







思い知らせて
やるわ…!!!

でっ

誰に手を上げたか



やめろって!!!

や

ちよ
やめ…っ

え
うそ

まったく冗談
じゃね…

むわっちなさい!!!
もう許さないわ〜!!!

きゃあああああ!!?

なんだありやあ?
あんな俺が
知ってるお嬢様と
違うぞ!?

あれはそう
狂犬!!

どこ行った
!?

野性に目覚めた
狂犬そのものじゃ
ないか——!!!





お嬢様籠絡作戦は
こうである……

街へ行くわ!

という
お嬢様のあとを
ついていく

フム

街の
散策中……



あえなく拉致監禁
されるが

僕が知識と魔術を
駆使して
さくつと解決



グレイラット家の
息のかかった
人さらに
誘拐される

おやおや



キャー ル・デウス
ステキー
結婚してええ

お嬢様をゲット
してウツシッシ……

ん?

じゃなくて
自発的に
勉強したいと
思わせる……

って
寸法です



わかったよ
トーマス
用意してやれ

はっ



ずいぶんと
大がかりな
策だね

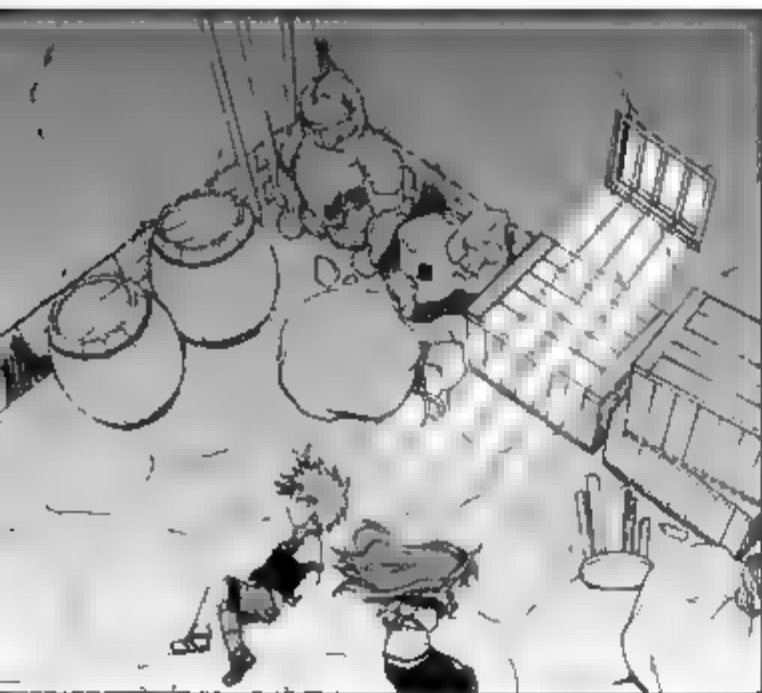
ああいう手合いは
少しばかり恐怖を
思い知ったほうが
効果的かと

護衛のグレーヌは
どうするんだい?

協力してもらえよう
説得してみせます



さて
結果は
どうなる
ことやら



すべては君の
頑張り次第だよ









ズン

えちよやりすぎじゃ……

ズン

やめ……

ハキーン



領主のっ

孫なのはっ

いだっ

あぐっ

わかってんだよ!!

ズン

やめ

やつ



なに調子
乗ってた

アア!?

ズン

ズン



チッ幸せそうな
顔しやがってよ!!

いつっ

なんで
俺まで!?




ギョ

ザッ










もし万が一
誘拐犯に勝てたとしても
お嬢様にすべて精力で
解決できると思われても
よくない

もつと無力感を

与えなければ

お嬢様



どうやら領主様に
よからぬ感情を抱く
ならず者に誘拐された
ようです

今夜には仲間が来て
僕らをなぶり殺しにすると
相談しています

ヒッ
ッ

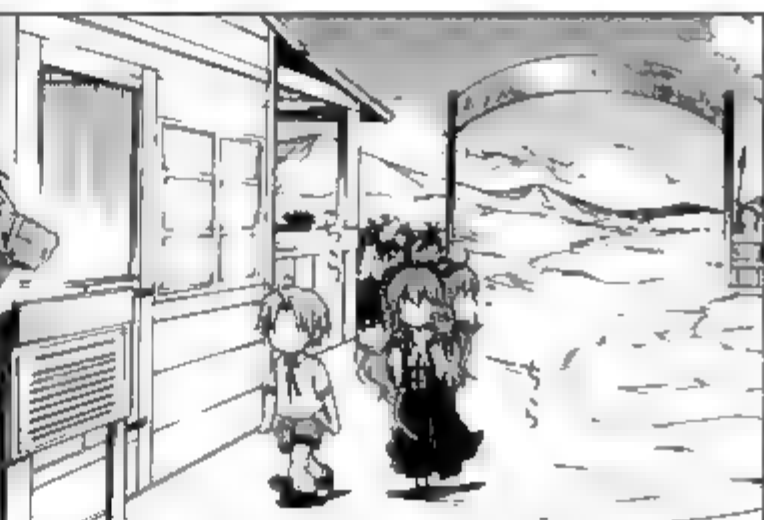
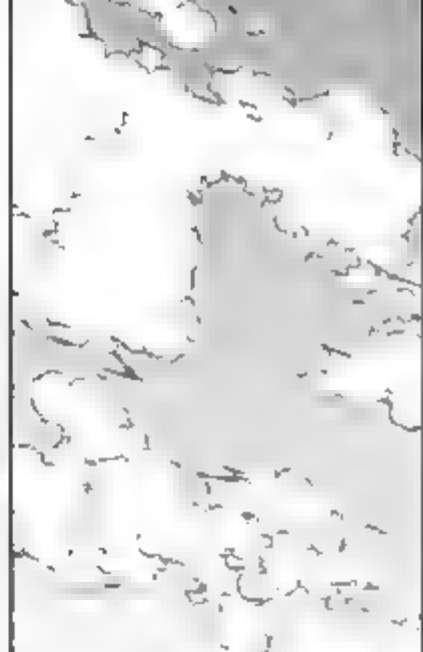


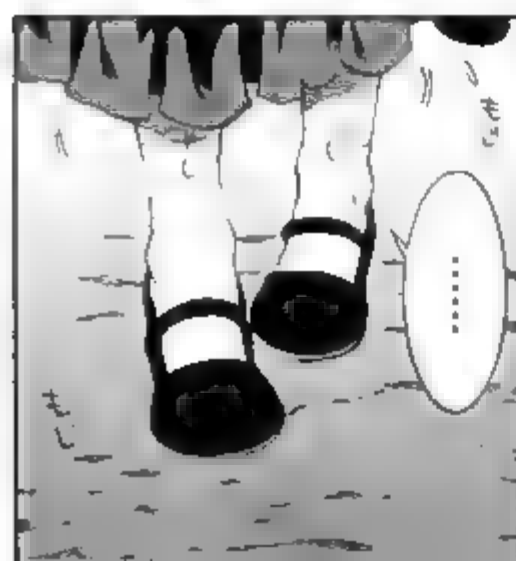














わかってるわよ!!

…お嬢様
トイレなら
そこに



ハイ
いつてらっしや…

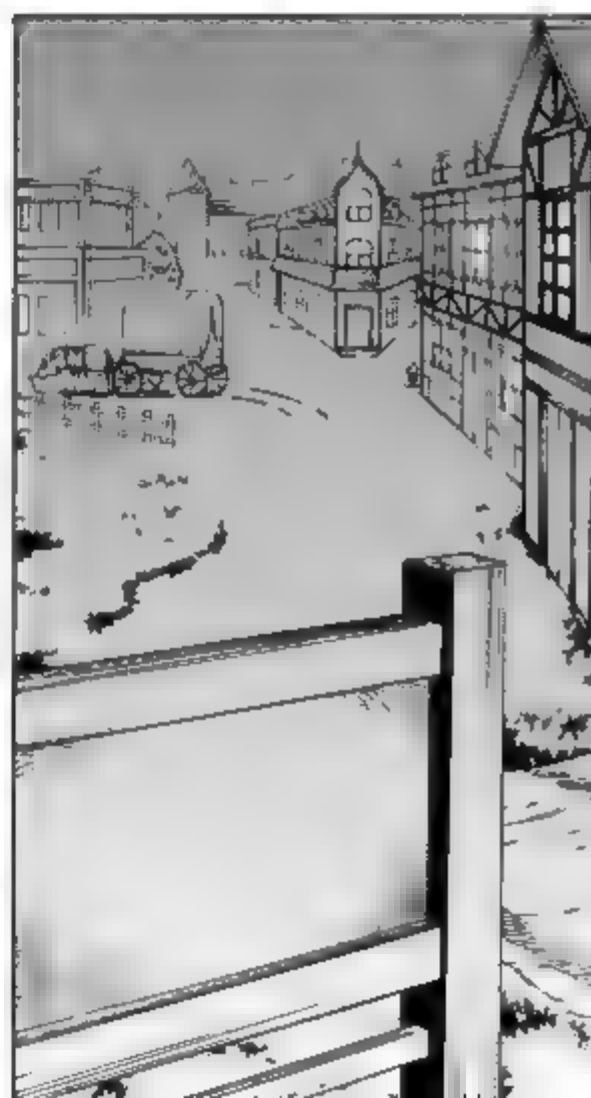
ちょちよつと

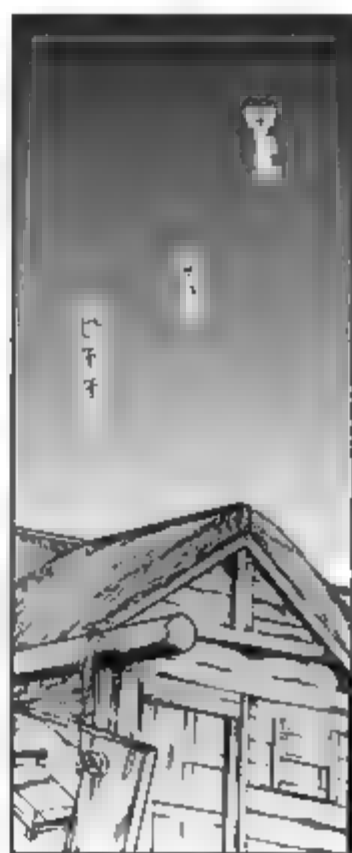
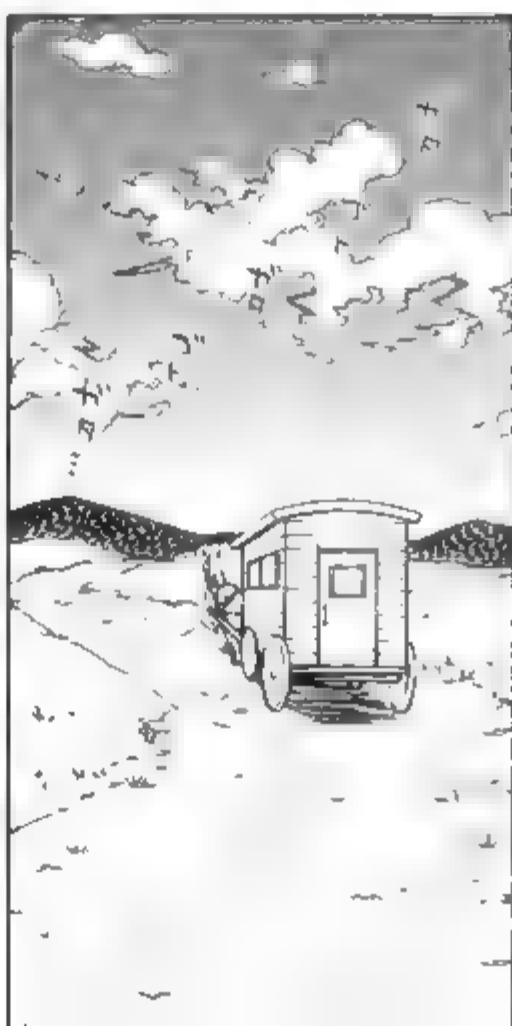
そのあいだにひとりで
どこかに行ったり
しないでしょね!!

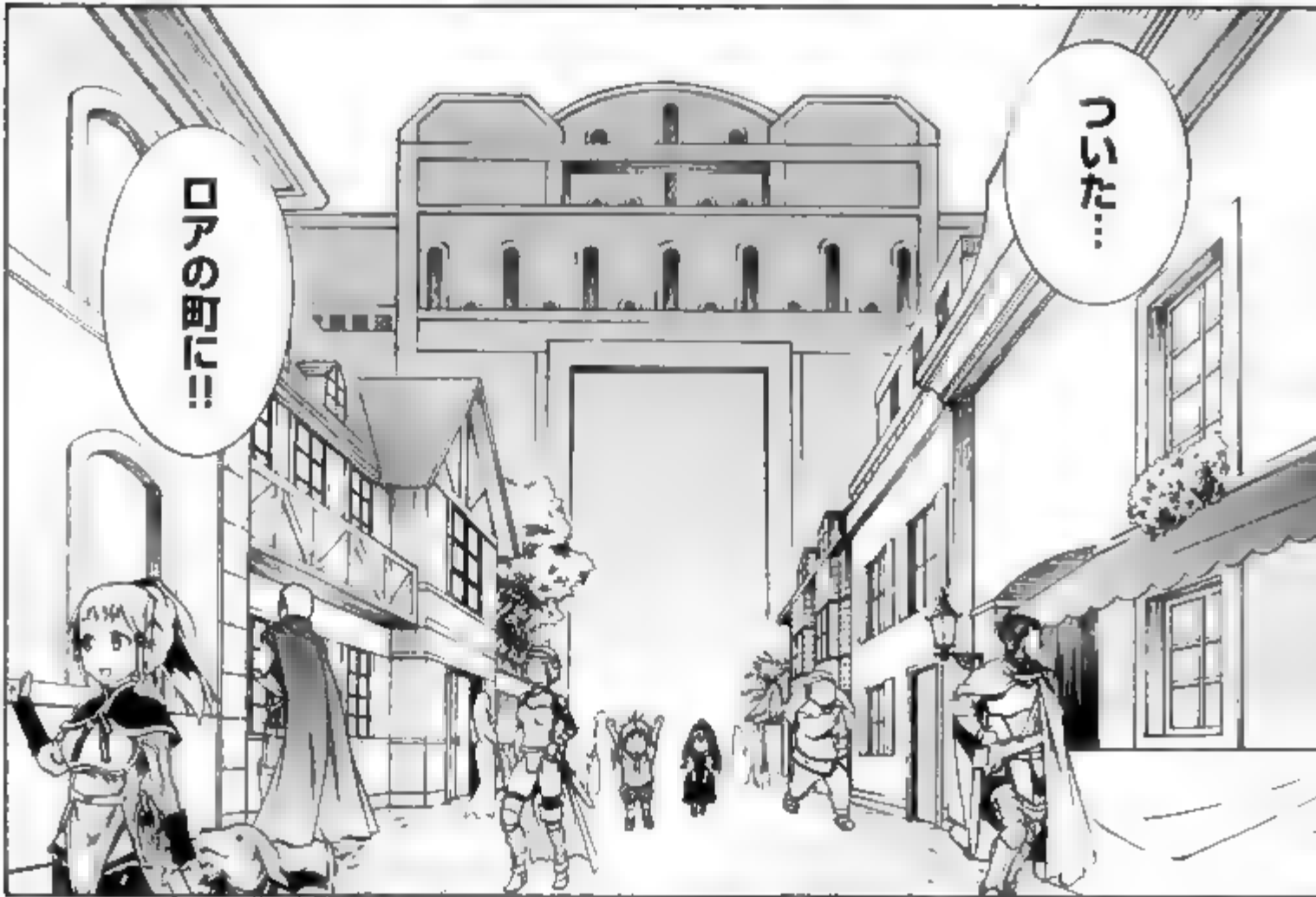


せ

せめてトイレの前で
まってなさいよ…













は？

お



お嬢様!?

お



しまった
油断した



あいつらの
仕業か…!!



〇 〇〇〇

〇〇〇

見つけた!!!











おどろいた

買えないん
ですよ!!!





ソニックブームと

はっ!!

チュウ

ストレンジャー

!!!





チイツ

ドオオ

ナメんじやねえぞ
クソガキ!!

ドオオ



フフン
一度は
やってみたかった
お姫様抱っこ...



ゲツ 岩を
斬り落とし
やがった!!

ヒュー



待ちやが...



ひとまず
離脱...

ドオオ

ドオオ



火球



は
ん

ぐん



ナメんなっ
つってんだろ!!







逃がすか!!



え

いいか
ルディ

三大流派のうちの
「北神流」だが
これは剣を使って
戦っているだけで
流派とはいえない

一応は状況に応じて
臨機応変に対処する
つてのがウリだが…
ありゃ小手先で
小賢しい手を
使っているだけだ

例えば
どんな手
ですか?

ん
そうだな…





足を斬られたときに

剣を投げて
突き刺すとか
だな……



避けられない



やばい



死







え
あはい

ギレーヌ

…さん？

空中で爆発が
起こったから
見に来たが…

さんはいらん
ギレーヌでいい

正解
だったな



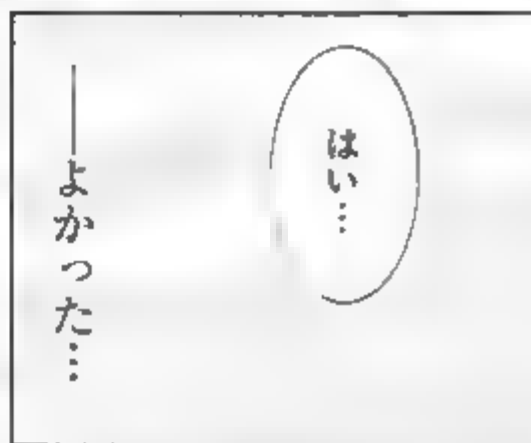
ずずいぶんと
早かったですね
敵もあつというまに…

近くに
いたのだ

ところでルーデウス
北神流と戦うのは
初めてか？



敵はふたりだけか？
ルーデウス





特別にエリスって
呼ぶことを
許してあげるわ!!!

特別なんだからね!!!



えあ
はい...

そういえば
お嬢様の名前
知らなかった



しかし



とちやう
度でもらえる
らしい

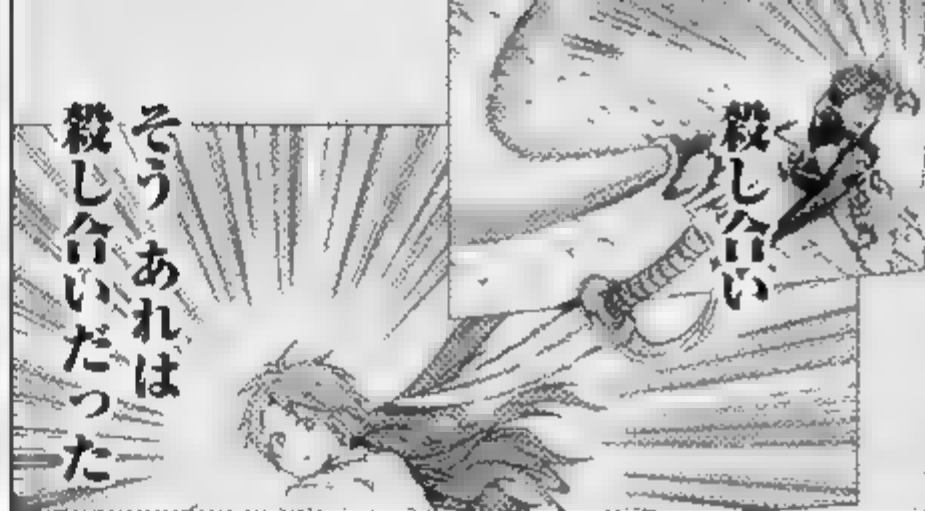


お嬢様

!?



死んでしまったら



そうあれは
殺し合いだった



死んでいた



なかったが
ここは剣と魔法の
異世界だ
その異世界でもし



もしもう度

俺は

どうなつてしまふのだらう……

無職転生

異世界行ったら
本気だす

第9話

ボレアス流挨拶



...そう



この事件の
犯人は……

トーマス……!!





今のまま受けても
まともな授業にすら
ならないだろうし
誰のためにもならない

お言葉
ですが
サウロス様

まずは
この甘やかしを
やめさせ
なければ！

それは
サウロス様
ではなく

エリス本人が
僕に言うべき
ことです!!

なんだと!?

「わん」

たっ頼みごとが
したいけど
頭を下げるのは
イヤ……

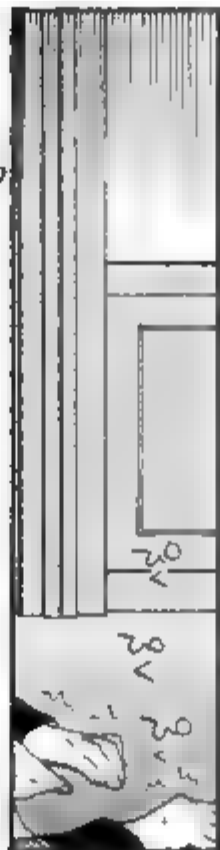
エリスを
そんな大人に
育てるおつもり
なんですか!?



エリイイイス!!

ほう!
言うでは
ないか!!

すん



今すぐ応接間に
来なさああい!!!



はあ
——
いい!!!



ただいま
参りました
おじいさま!



それで
おじいさま

先ほどの
件は...

ウムッ
そのことだが



...ってあら
いたの
ルーデウス



エリイイイス!!

頼みごとを
したいのなら
自分の頭を
下げろ!!!





え

ハキコーン

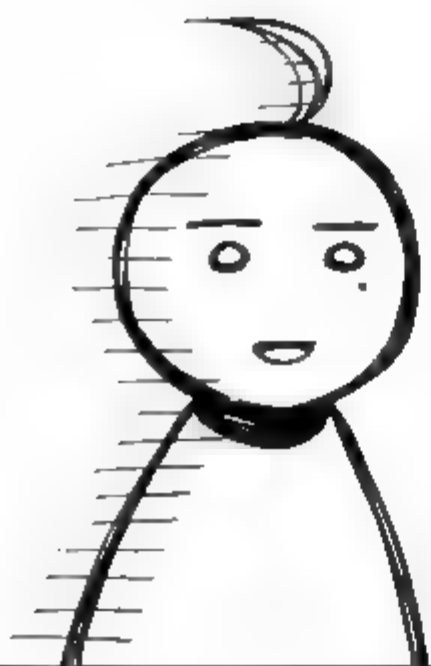
エリスに魔術を
教えてください
ニヤん☆

おや

ん

ん





どうやら
嫌な夢を
見ていた
ようだ…

イカン
意識が
とんでいた



怒り 8
屈辱 2

ぜんぜん可愛くなんて
ないですよ？

目が完全に
捕食者の
目ですよあ

照れ 0

ちよつとちよつと
サウロスさん！
これはものを
頼む態度じゃ
ないでしょ！

なんとか
バってやって
くださいよ！







グレイラット家が
とくに好きもの家系
なのかもしれんが…

パウロが一番
まともだわ

巨乳好きだけ



もちろん
オツケーじゃよ
なあ~~~~



さっ ルーデウス
エリスたんが
こんなに可愛く
お願いして
いるんじゃ

ピルッ





いやしかし

感心したぞ
ルーデウス



それにあのまま
続けさせてたら

怒り度マックスの
エリスにボコボコに
されてただろうし…

よしそれでは

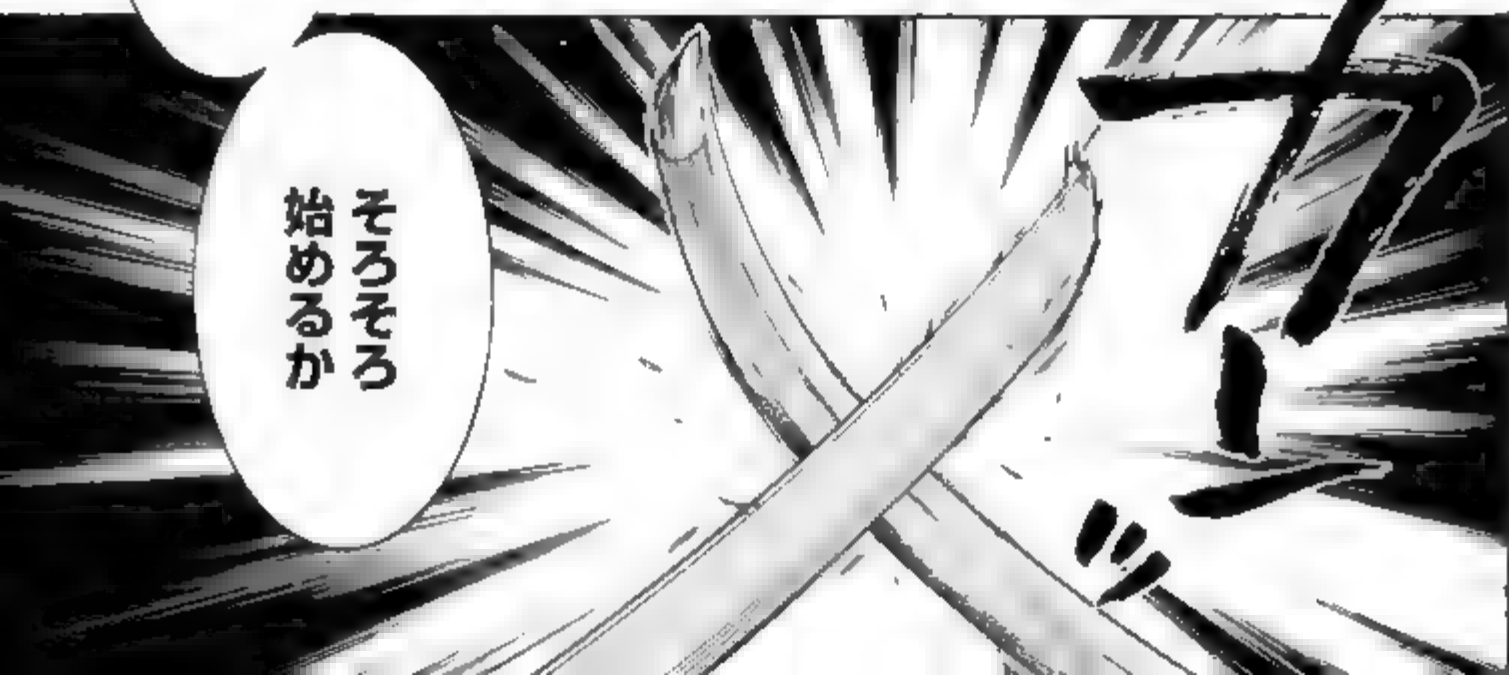


あのサウロス様に
言い返したうえに
ボレアス流の挨拶を
廃止させるとは

…あの頼みかたは
ダメでしょう

エリスだって
嫌がってましたし

とまあ
人にモ
頼む
態度がああ



そろそろ
始めるか



いいか

踏みこみの
姿勢を
おぼえろ



正式に家庭教師と
なった俺だが

エリスとギレーヌに
授業をするかわりに

剣神流で4番目に
強いとされている
剣王ギレーヌから
剣術を習うことになった



授業が
はじまって
一カ月

いぞっ

つ
ち



わかったこと
その①

ルーデウスは
まだまだだね！

っ
っ

お嬢様は
剣術が
得意



あいたーっ



あたっ





いずれルーデウスみたいに
おっきな花火をあげて
みせるわ……!

やめな
さい!!!

お嬢様は
魔術が
好き



その③



なんで!
この世に!
算術なんて
ものが!!
存在すんのよ!!

そこから!?



ムツキ〜
ちよつと
ルーデウス!!!

カイ!



わからないときは
そのつど質問
してください

算術なんて
なんに使うのよ〜

お嬢様は
読み書きと
算術が
大の苦手



ウム…あたしも
昔は剣さえあれば
いいと思っていた



ちよ…
ギレーヌ!?

昔はルーデウスの
両親をふくめ
6人パーティーで
冒険していたな



ひとりになって
腕試しや素材集めに
迷宮と呼ばれる
洞窟に潜ったときの
ことだ



えっ
そうだったん
ですか!?

ああ

パウロとゼニス
が結婚して
解散したんだ

なになに
冒険の話!?

なんと途中で
食料を落としてな
残ったぶんを帰りの
日数で分けようとして
失敗した

3日も飲まず
食わずで
死ぬかと思ったぞ

耐えきれず
落ちていた
魔物のク
食って
吐き

ストツプ
ギレーヌ
その話は
そこまで!!

おれんじちゃん



シルフィとはまた
勝手が違う…

俺の教えかたにも
問題があるのかも
しれない

！

うむ

授業の準備を
念入りに
しておこう

師匠も俺の
家庭教師のとき
遅くまで
頑張ってたし

ルーデウス！
こう？
これでいいの？

うん！
上出来です
エリス！

ふふーん

ごーんな
もんよ！

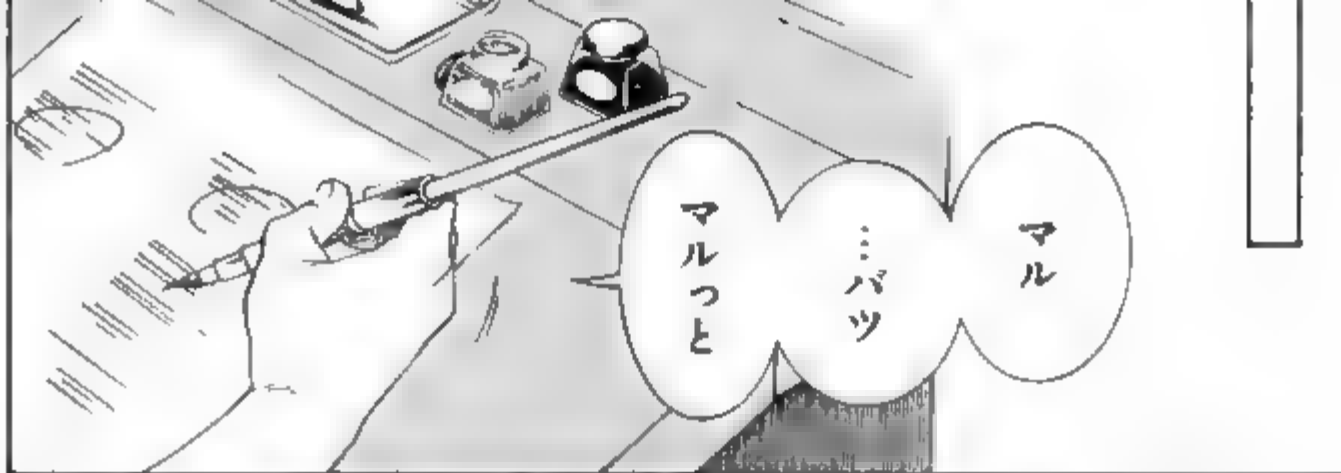
しかし…
シルフィに
師匠があ



ふたりともふごろ



どうしてるんだろうな



マルっと

…バツ

マル



うん！

正解率
上がって
ますね！

ササ



この世界では
高度な数学は
必要ないだろうし

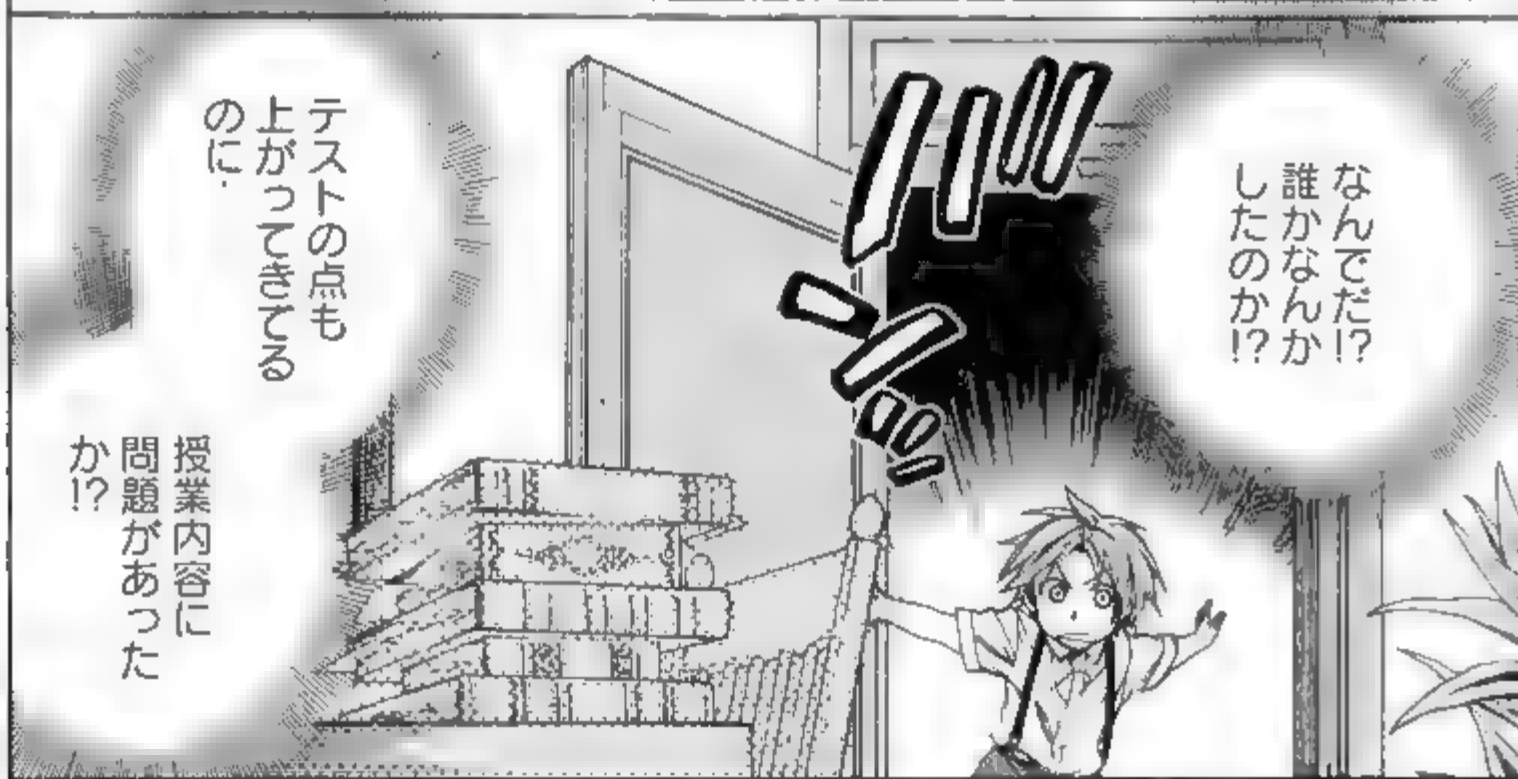
5年で四則演算が
マスターできれば
よしとしよう

いい調子
ですよ
エリス…



……フンッ





なんでだ!?
誰かなんか
したのか!?

テストの点も
上がってきてる
のに、

授業内容に
問題があった
か!?



わかった

for me



それとも
授業配分に
問題が?

は、



教師失格だ

俺は

緊急職員会議

——というわけ
なのですが

いかがでしょうか
先生がた

ガッ

!!

ドン



よくわからんな
ルーデウス

もう一度
説明しろ



休みとは
一体なんだ
!?

第10話

エリスの憂鬱



ねえ!
ルーデウスに
ギレーヌ!

もつとあつちの
にぎやかな
ほうに行つて
みましようよ!



エリスー

ひとりで先に
行つてはダメ
ですよー

まーた
さらわれちゃい
ますよー

わかつてる
わよー!!!



しかし...7日のうち
1日だけ授業のない
休日とやらを
設ける...とな

はい



休み…何度
聞いても
わからん

冒険者には
伝わりづらい
のかな…

ギレーヌは休日も
今までどおり

エリスの護衛をするのを
おススメします



今までのような
過密スケジュールと
苦手な授業の
エンドレスでは

エリスのストレスも
爆発してしまうで
しょう…



ほら
見てください
ギレーヌ



ロアの観光で

お嬢様もいい具合に
リフレッシュできて
みたいですよ

まあ
そうだな



俺にも休日
は必要だしね



それに



すみません
フリーッブ様に
書庫まで案内して
いただいて

構わないよ

子供なのに
自由時間も
読書したい
だなんて
感心するね

ありがとう
ございます



俺だって
いつまでも
行きづまってちゃ
ダメだしな

少しでも師匠に
追いつけるよう
努力せねば……

もういい!!



あれは…

エリス
お嬢様!!



これはこれは
フィリップ様に
ルーデウス様

お見苦しい
ところを
お見せしました



もうすぐ
エリスお嬢様の
10歳のお誕生日
パーティーが開催
されますでしょう?

ええ

それに向けて
礼儀作法と
ダンスの猛特訓
なのでございます



お疲れさまです
エドナさん

今は礼儀作法の
授業でしたか

ええ



俺の5歳の誕生日のときもパーティーがあったが

この世界では5歳・10歳・15歳の誕生日は特別な日

僕の授業を返上してまでがんばってますものね

ええ



ああ！このままではお客様のお嬢様はお客様の前で大恥を……



私としてはせめて10歳の子供らしく

恥をかかない程度にできれば構わないけど……

ええですが基礎もできない様子で……



ルーデウス様からもダンスの練習に戻ろう
説得していただけないでしょうか！

デスヨネー

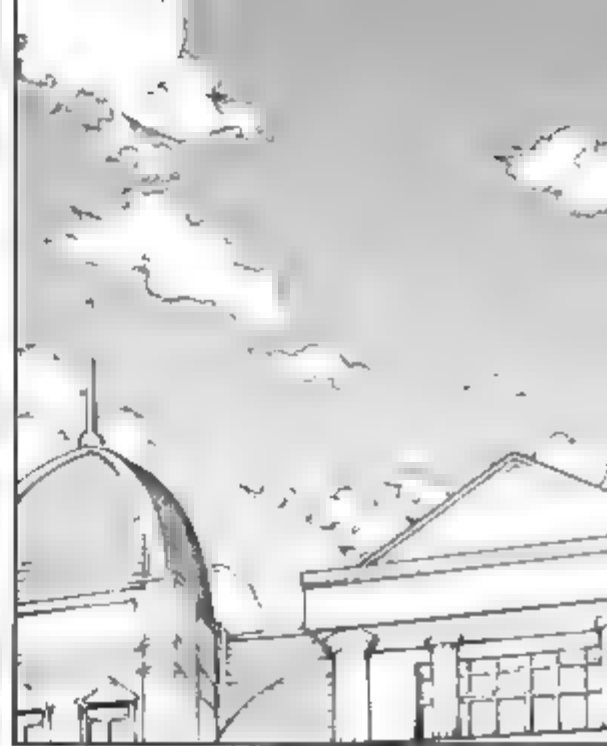


えーえと
つまり……？



なんてことだ！
かわいいエリスが
笑いのものに
されるなんて

あんまりだと思わないかい
ルーデウス！







どいつも
こいつも
上から目線で
ごちゃごちゃと...

勇気を
だせ？

もう少し
頑張れ？

できねーんだよ！
俺は！！

普通も！
人並みも！！

できねーから
ひきこもってん
だよ！！

人並みに
生きられる
やつが

俺の気持ちを
わかったふうな口
きいてんじゃねー！！

いやこれは
言いわけだな...

え？

いえ
そうですね...

なぜと聞かれると
難しい問題かも
しれません



?

あつまりですね

せつかくの誕生日
パーティーが
嫌な思い出に
なってしまったら

なんだか
悲しいじや
ないですか

うまくできない
ことだからこそ
一生懸命頑張っ
てできるように
なったら

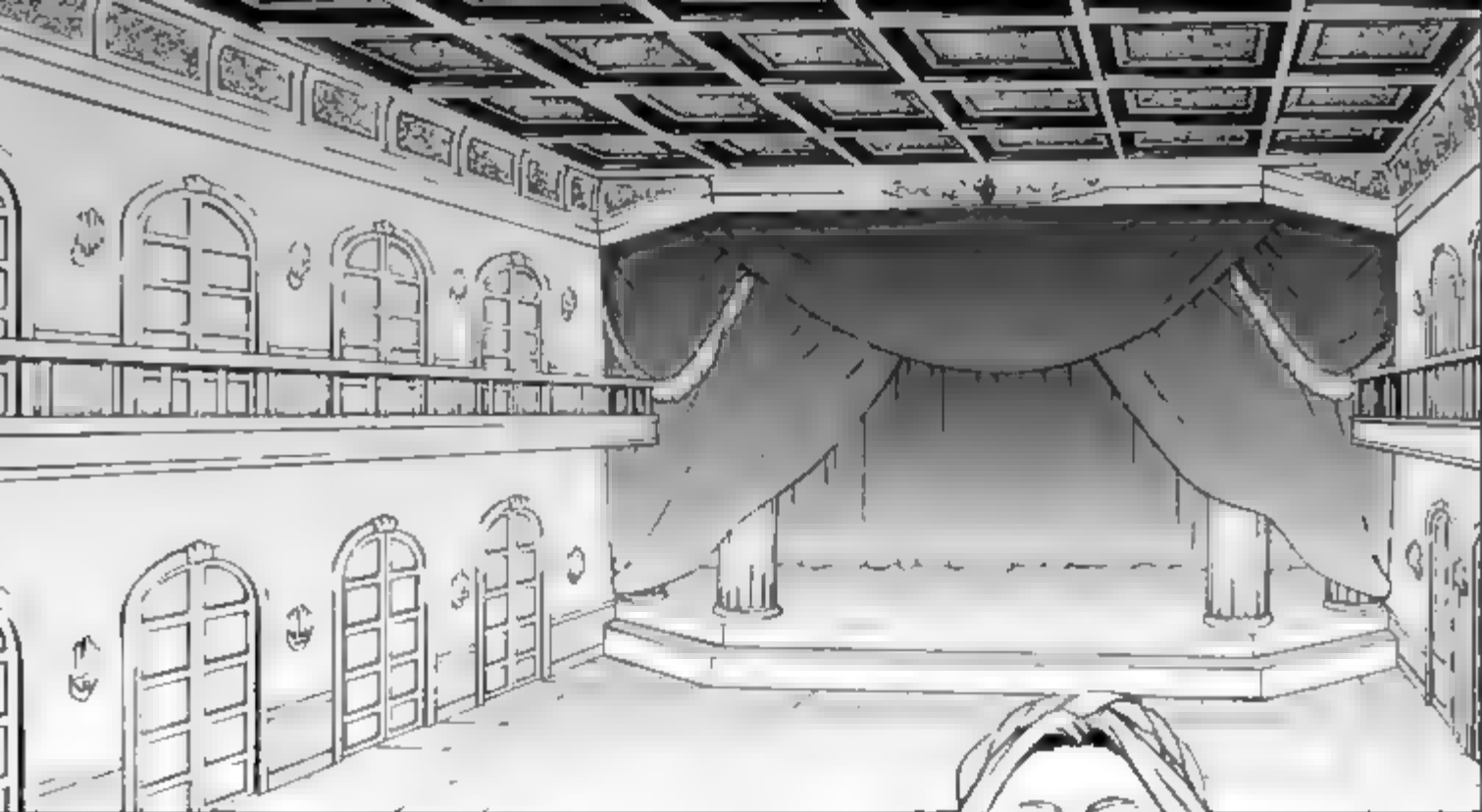
達成感もきつと
すこいと
思うんです

……
そうかしら

なんだったら僕も
手伝いますよ

ダンスの練習
もう一度して
みませんか!?





110

はい
フィニッシュー！

スー
ドゥー

ター
ター

ギー
ギー

すばらしいです
ルーデウス様！

ルーデウス様は
才能が
おあり
です！

ありがとう
ございます

しかし…お嬢様は
どうして音に
合わせられない
のでしょうか…

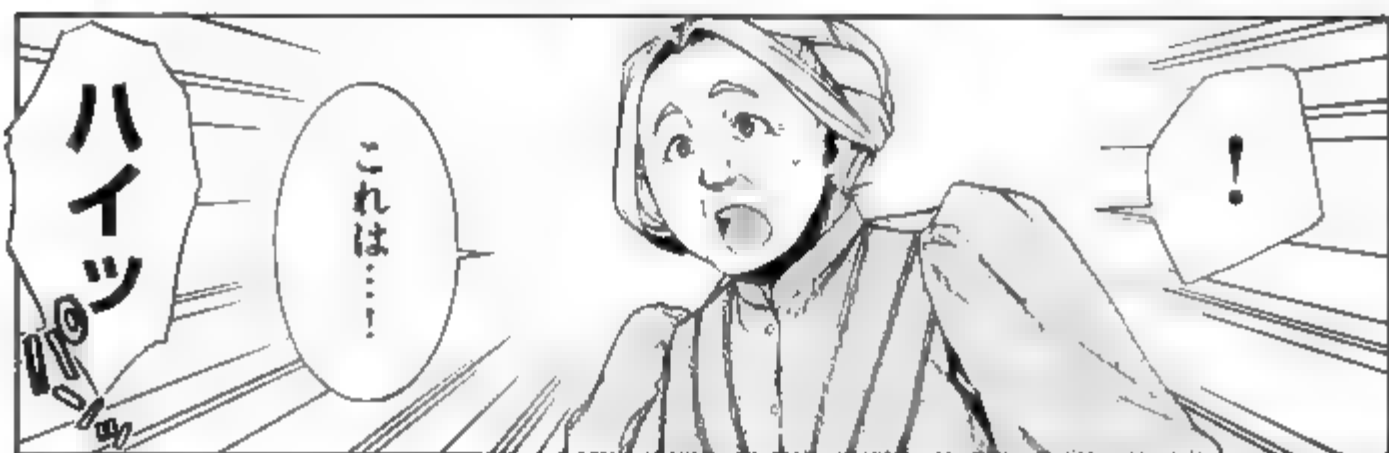
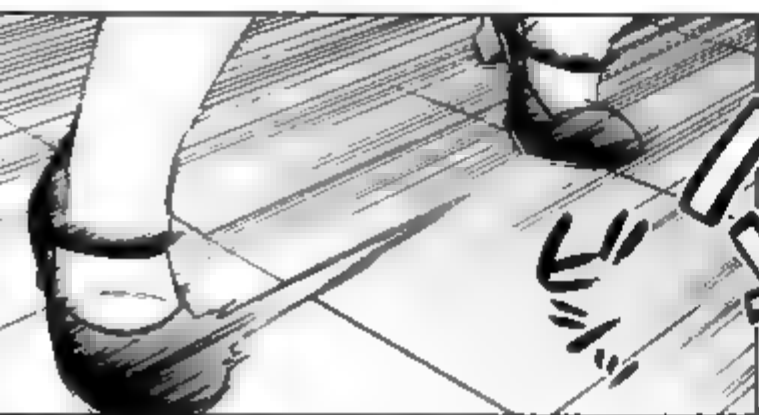
あそのこと
ですが
エドナさん

ちょっと
試してみたい
ことがあるので
僕に任せて
いただけますか？















エリス

ひとつの授業で
学んだことは
ほかの授業でも
応用できます

うまくできない
ときはほかの授業も
よく思い出して
ください



この調子で
続ければきつと
踊れるように
なりますよ

うん……



まあ……さすが
ルーデウス様

このエドナ
目から鱗が落ちる
思いです

剣術と
ダンスには
通じるものが
あるのですね

まあ剣を使った
踊りもあるくらい
ですからね



まあ
そんな舞が？
どちらの踊り
なのでしょう？

えっ 剣舞って
この世界に
ないの！？

ささあ…

僕も本で
読んだだけ
なので…



なるほど…
そうした知識の
集積こそが

ルーデウス様の
知恵のみなもと
なのですね

そうよ！



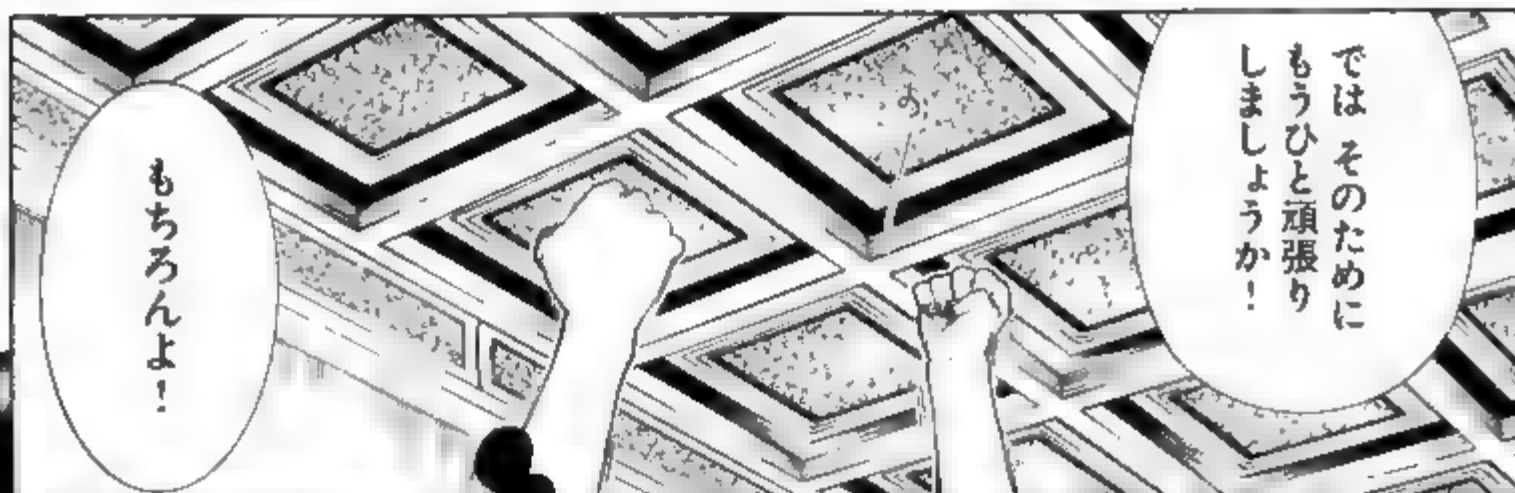
ルーデウスは
すごいのよ！！



いい思い出
なるわ!!



きっと
パーティーも
大成功で




ではそのために
もうひと頑張り
しましょうか!

もちろんよ!



こっぴど





エリス10歳の
誕生日パーティーが
開催された

To be continued Vol.3.

無職轉生

異世界行ったら
本気だす



狂犬王、飼犬となる

芥子理不尽な孫の手

腹が減った。

まともな飯は、もう何日も口にしていない。豪腕を誇った腕には力が入らず、俊足でならした足はガクガクと震え、立つこともままならない。

なにかもが空腹のせいだ。

腹の中はなにも入っていない。昨日、道端で捕まえた虫を食ったのが最後だ。

そして、その虫を食った日の夜中、猛烈な胃痛に見舞われた。激痛の中、何度も何度も吐いた。

夜中に一睡もできず、食べたものをすべて吐き出し、尻のほうからも排泄して、ようやく胃痛は収まった。間違いなく、あの虫が原因だろう。

虫が原因で、今、あたしは無様にも仰向けに倒れ、空を見上げている。

落ちきった体力に加え、一晩中胃痛と戦った体には、すでに立ち上がる力すら残されていないかったのだ。

「ここで終わりか……」

死ぬ。

あたしはそう悟った。

少し歩けば街道に出られるが、そんな力は残っていない。よしんば力が残っていたとしても、金も力も残されていないあたしを、誰が助けるものか。

あたしは死ぬ。ここで死ぬ。ギレーヌ・デドルディアは、ここで餓死するのだ。

剣王ともあろう者が、戦いの中で死ぬのではなく、無様に餓死するのだ。それも、あんなちっぽけな虫を食ったのが原因で。

そう悟ると、今までのことが走馬灯のようによみがえってきた。

思い出すのは、パウロたちとのパーティーを解散した日からのことだ。

あの日は誰もが不機嫌で、誰もが別れを望んでいた。

あたしも例外なく別れたいと思っていたが、別れたあと、言い知れぬ寂しさが胸の内を占め、

カ月はその憂鬱な気分顔に顔をしかめていたのを憶えている。

解散後、あたしは中央大陸を転々とした。今までどおり、迷宮探索を続けようと考えていた時期もあったが、ひとりでは食料やアイテムの管理がどうしてもできなかった。ほかのパーティーに入るつもりはなかった。他者とうまくやっていないのは、なにより自分がよく知っていた。

それに、あの別れのような気分を味わうのは嫌だった。

その気分を払拭するように、あたしはアスラ王国へと移動した。

アスラ王国は、とても豊かな国だと聞いていたから、あたしのような奴でも、なんとか仕事にありつけるかもしれない、と思っていた。

浅はかだった。

アスラ王国は、冒険者——特に上位ランクの冒険者にとって生きにくい場所だった。

首都アルスには、あたしが受けられる依頼はほとんどなかった。

戦うことしか能のないあたしは討伐依頼を探したが、せいぜいあってもCランクで、Sランクのあたしが受けることはできなかった。そのくせ、アスラ王国の物価は高く、宿屋に泊まっているだけでも、パーティーを組んでいたところに少し溜め込んでいた金がすぐになくなった。

依頼がないなら、自分で魔物を倒し、その収集品を売って生活すればいい。

そう考えたものの、首都近辺に魔物の姿はなかった。普段から騎士団が狩り尽くしているらしいと聞いたのは、完全に金がなくなったあとのことだ。

宿を追い出されたあたしは、町中をさまよった。

残飯を漁りながら、野良犬のように生きた。盗みや殺人は、剣神様に「人の社会で行きたければ、人のルールを守れ」と強く駄られていたため、決してやらなかった。

そんな中、ある噂を聞いた。

「北東にあるフィットア領の城塞都市ロアでは獣

族が優遇されている。仕事にあぶれた獣族が行けば、なにかしらの仕事もらえる』

あたしはそれにすがりつくように、移動を開始した。

ロクなものを食っていなかったせいで体は重かった。旅に耐えられるような状態ではなかった。だが、それでも北東を目指した。

食えそうなものがあれば、草でも虫でも全部食った。小川を見つければ、吐きそうになるまで水を飲んだ。森の中に入り、動物や森の恵みを狩ろうと考えたこともあったが、アスラ王国では認可を持つ狩人以外には獲物を狩ってはいけないという決まりがあったのを思い出し、断念した。

そうして、フィットア領に入り、城塞都市ロアまであと一歩。

というところで、力尽きた。

「最後に食ったのが、苦虫とは、笑えんな……」

思い出すのは、昨日食った虫だ。

いつもなら、毒虫や毒草は臭いで嗅ぎ分けられるのだが、空腹のあまり鼻も利かなくなってい

るらしい。

あるいは、毒でもなんでもなかったか。消化する体力すら残されていなかったため、吐き出すしかなかったのかもしれない。

なんにせよ、なんにも食えず、体も動かない。

終わりだ。

「こんなところで死ぬとは、想像もしていなかったな……」

少なくとも、剣の聖地で共に修行した者たちや、剣神様は、あたしがここで野垂れ死ぬとは思っていなかっただろう。

あたし自身も、死ぬときは戦いに敗れて死ぬのだと思っていた。

あるいは、大森林の連中は、あたしがこういう死にかたをすると予想していたかもしれない。あそここの連中は、ことあるごとにあたしの死を望んでいたし……いや、それは予想ではなく願望か。

ああ、そうだ。ひとり、こういう死にかたをすると予言していたやつがいたな。

『ギレーヌ。お前さんは、俺らと別れたあと、仕

事が見つけられず、あちこちうろついてるあいだに餓死しそうだな』

ギース。パーティーでシーフ役を務めていたあの男は、確かにそう言っていた。

まさに、その通りになった。

あの男はたまに未来予知でもしているかのようには、的確に物ごとを言い当てる。

ほかには、なんと言っていたか……そう、確か……。

『お前さんは剣の腕は確かなんだ。人づきあいを怖がらず、誰かを手伝ったり、誰かに剣でも教えてやりやあ、食いつなげるだろうさ』

そうか。そうだ、そうすればよかった。

当時は剣なんて教えられないと思ったが、パウロに教えたようにやれば、あるいは弟子のひとりも育てられるかもしれない。

「ハッ」

こんなアドバイスを今更になって思い出すとは……相変わらず、あたしは頭が悪いな。

これでは、パウロに馬鹿にされても言い返せない。

い。

「パウロ、か」

そういえば、あの男はどうなったろうか。ゼニスとの子供は、無事生まれただろうか。

アスラ王国に移動するとは聞いたが、そのあとについてはなにも聞いていない。

少し心配だったが……。

「ふっ」

心配という言葉に、小さな笑いが漏れた。

パウロはなんだかんだで要領のいいやつだった。

パーティーの解散のとき、最後の最後で失敗したが、普段は大きな失敗とは無縁で、小さな失敗はしばしばやらかしたが、最終的にはうまく収めている、そんな感じの男だったから、今はきつとうまいことやっているだろう。

そんなのを、死にかけている愚かなあたしが心配するなど、おこがましいにもほどがある。

「……………」

あたしは本当に、愚かだ。

もっと違う道もあったらうに、もっと違う方法

も選べたろうに……。

「あたしは、こんなにも生きる力がなかったんだな……」

生まれ変わったら、今度はもう少し勤勉になろう。

馬鹿だからと開き直らず、覚えられるまで頭を捻ろう。

「……つまらん人生だった」

ぼつりと眩^{くら}き、あたしは目を閉じた。

せめて眠りの中で死にたい。

そこで、ふと、あたしの顔に影が差した。

★ ★ ★

その日、エリス・ボレアス・グレイラットは川遊びに出かけていた。

祖父のサウロスと一緒にだ。

サウロスは厳しい人物だったが、孫娘には甘かった。

その日も、「町の外を見てみたい!」というエ

リスの願いに応え、忙しい仕事の合間を見つけて、エリスを遊びに連れていったのだ。

「エリスや、楽しかったかい?」

サウロスは帰りの馬車の中、満足気な表情を浮かべるエリスにそう聞いた。

「とつつつても楽しかったわ」と

エリスは当然のようにそう答えた。

見渡すかぎりの草原の中、冷たい水の中で魚を追いかけたり、岩から飛び込んだり、泳いだり……。

普段は家の中に閉じ込められ、たまの外出でもせいぜい町中にしか行けないエリスにとって、草原の中の川というのは、今までに体験したことがないほど開放的で、素晴らしかった。

「また連れてきて!」

「おお、もちろんだとも」

サウロスはにこやかに笑いながらうなずきつつ、今度はもっと遠くがいいと考えていた。

確か、エリスはまだ海を見たことがなかったは

ずだ。川遊びの途中でも「海は川と違って塩辛くて広くて深いのよね？」とお付きのメイドに聞いていた。

川であれだけ大喜びしていたのだから、海を見れば飛び上がって喜ぶだろう。

「今度は海に――」

「馬車を止めて！」

言いかけたサウロスの言葉を遮るように、エリスの叫びが馬車内に響いた。

御者台の従者は小窓からサウロスの様子を伺う。

サウロスは即座にうなずいて、馬車を止めさせた。

「エリスや、なにを――」

「待ってて！」

馬車が止まると同時に、エリスは外へと飛び出した。

サウロスは護衛に顎で追いかけるように指示し、自らもまた馬車から降りた。

「……」

幸い、エリスはさほど遠くには行っていないかった。

馬車から十メートルほど離れた草むらで、護衛と一緒に下を覗きこんでいた。どうやらなにかを見つけたらしい。

「おじいさま！」

サウロスは大腿でエリスの場所へと急いだ。

そして、エリスが見つけたものを見下ろした。

「行き倒れか！」

そこには、ひとりの女獣族が目をつぶって仰向けに倒れていた。

身なりを見るに、おそらく冒険者だろう。だが、その頬はやつれ、今にも死相が浮かんで見える。

「おじいさま！ 獣族よ！」

「ほう、珍しいな！ ドルディア族だ。耳と尻尾を見るに、デドルディアか！」

アスラ王国でデドルディアを見ることはほとんどない。まして純血のデドルディアなど、獣族の王の血筋だ、大森林から出てくることなどめった

にない。

それが、こんなところで行き倒れていようとは……。

「む……」

そこで倒れていた女が、うるさそうに耳をピクつかせながら、うつすらと目を開いた。まだ息があつたらしい。

即座にエリスがしゃがみ込んだ。

「ねえ、こんなところでなにをしているの？」

「……………これから、死ぬところだ」

女冒険者はエリスを無遠慮に見つつ、かすれた声で答えた。

「そう！ でもあなたの耳と尻尾、とっても綺麗よ！死ぬなんてもつたいないわ！」

「……………もつたいなくても、あたしには、もう生きる力がない。放っておけ」

女冒険者——ギレーヌはそう言った。

まだ生きていたいと思いつつも、気力も体力も残っていなかった。助けてほしいという言葉は、なぜか出てこなかった。

ギレーヌは、すでに死を受け入れていた。ここで野垂れ死ぬのが運命だと。

もつとも、そんなこと、エリスにとってはどうでもよかった。

「じゃあ！ 私が飼ってもいいわね！」

エリスのはつらつとした声が草原に響き渡った。

「ねえ、おじいさま、いいでしょ？」

「構わん！」

サウロスは即座に答えた。デドルディアが我が家に来るのであれば、断る理由などなかったからだ。無論、ギレーヌが良からぬ考えを持つ者である可能性は、考えていない。

「……」

ギレーヌはポカンとした目でエリスとサウロスを見た。

なにが「じゃあ」なのか、なにが「構わん」なのか、まったく話が通じていないことに、困惑していた。

「フツ」

だが、大昔の自分もこんな感じだったのか、と

思い出し、自然と笑いが漏れた。

「あたしを剣うなら、あたしはお前に剣を教えてやろう」

昔のパーティメンバーの言葉を思い出し、そう言った。

「本当?」

するとエリスは嬉しそうに顔をほころばせた。

以前から剣を習ってみたいと思っていたのだ。

「約束よ!」

こうして、ギレーヌの運命は決まった。

その場でお昼のお弁当の残りが与えられ、ギ

レーヌの命は救われた。

ギレーヌは生き長らえたことに感謝し、エリス

に忠誠を誓ったのだった。

しかし、このときは誰も知らなかった。

ギレーヌが『剣士』であることを。

そして、ギレーヌを師としたエリスがめきめき

と剣の腕を上げていくことを……。

コミックス2巻 発売です!!

フジガ先生の描く可憐なエリスの暴力を!!

それにめげない健気なルーデスのセクハラを!!

どうぞお楽しみください。

理不尽な子系の手



無職轉生

異世界行ったら
本気だす





私はリーリヤ

グレイラット家の
メイドである

side
story

グレイラット家のメイドさん





父様ってば母様の
ゴキゲンとりに
必死ですね



あー



はい 旦那様は
当時から
剣の才能にあふれ
あつという間に
私を追い越して
いかれました

そうだったんですか！
初耳です！



私と旦那様は
昔同じ道場で
剣術を習って
いました

え



ですが
才能がある半面
練習嫌いで

よくサボっては
遊び歩いてたん
ですよ

…どうせ
あんなふうな
女の人の尻を
追いかける遊び
でしょう？

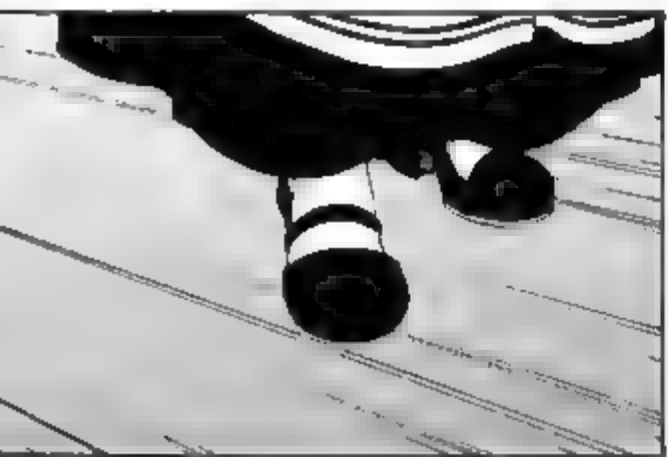
キョー

ええ



あ
いえいえ

な
なんど
いうか
すみません



実はそのとき
私の初体験も
なかば強引に
奪われました

え

それがきっかけで
旦那様は道場から
逃げだし

旦那様とは
それっきり
でした

ええ!?



奥様が坊ちやまを
授けられた頃
ちようど私も
働き口を
さがしていました

これもなにかの縁
ということ

こちらで働かせて
いただくこと
になったのです

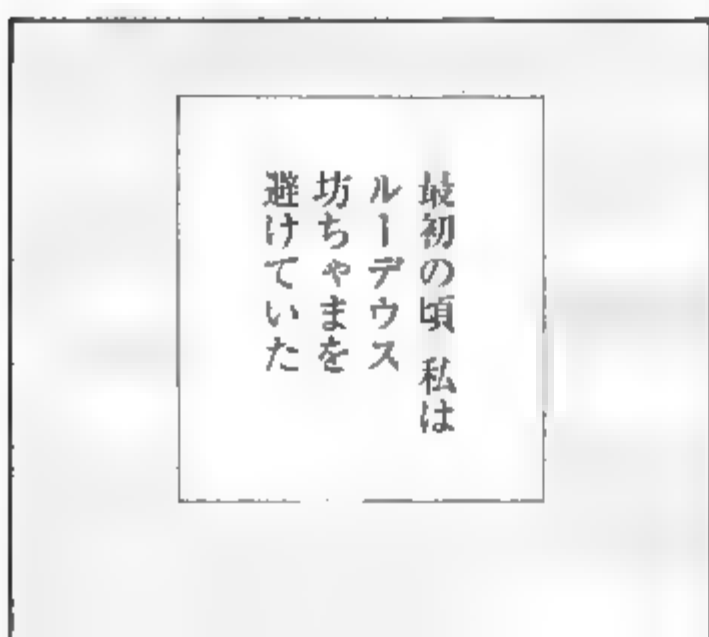
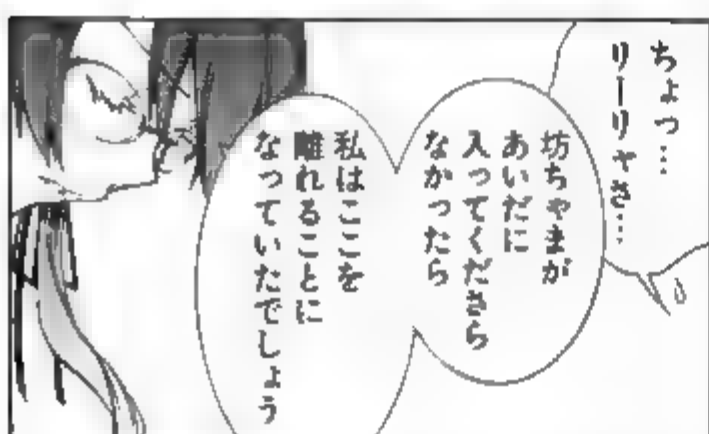


どうでしょう

当時も決して
愛しあつて
いたわけでは
ありませんし



……リリーヤさんって
父様のことが……
えっと……
好きだったの
ですか?



うまれたときから
いっさい泣かないし

抱きあげれば
こちらを値踏みする
中年親父のような
笑みを浮かべる

「オホッ」

赤んぼうの愛らしさなど
ひと欠片も感じられない
彼に
私は生理的嫌悪感を
抱いていた

いつからか
知性を感じられる
ようになってからは
放っておくように
なったが

それでも
必要以上に
近づきは
しなかった

何語…?

坊ちゃまは
聡い子だ

避けられていることに
気づいていただろう

それなのに

僕にとっては
両方とも
大事な家族で
兄弟です!!

許してくれた
救ってくれた

身重の奥様を裏切り
旦那様をたぶらかしたあげく
妊娠してしまった自分を

どんなに嬉しく

そして自分を
呪ったことか

顔をあげて
ください
リーリヤさん

リーリヤさんに
ここをやめられたら
僕だって困るんです

え？

だって

そしたら
リーリヤさんの
いれてくれた
おいしいお茶

飲めなく
なっちゃう
でしょう？





いや、死ぬまででは
この恩は返しきれない

もしもしお腹の子が
無事生まれ育ったら



死ぬまで仕えるべき人だ

この人は尊敬すべき人……

この子を坊ちやまに……

いや……
ルーデウス様に
仕えさせよう

リリーリヤさん？

